

# 次期長野県食と農業農村振興計画(答申案)の概要

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 策定の趣旨 長野県食と農業農村振興条例第9条に基づき策定
- 2 策定年月日 平成30年2月
- 3 計画期間 平成30年度～34年度(5年間)
- 4 計画の進行管理 毎年度、進捗状況を、食と農業農村振興審議会及び地区部会から意見聴取の上、県議会に報告し公表
- 5 計画の推進 県の取組に加え、市町村、農業団体等の「参画」と、県民等の「協働」を基本姿勢として、それぞれが責務と役割をもって一体となり計画を推進

## 第2章 食と農業・農村をめぐる情勢

- 【社会情勢の変化】
  - 国際化の進展
  - 人口減少社会への対応
  - 情報収集・発信の多様化と価値観の変化
  - 全国的な農業・農村に対する発想の転換
  - SDG's(持続可能な開発目標)の取組
  - 地球温暖化への対応
- 【現状と課題】
  - 農業者の減少と高齢化が進み、経営の縮小や廃業が進んでいる
  - 中山間地等の狭小で不整形な農地の担い手への集積が進んでいない
  - 人口減少による食料消費の減少が予測され、価格等への影響が懸念
  - 飲食店や旅館など県内実需者の県産農畜産物の利用へ向けた関心の高まり
  - 用排水路などの農業水利施設等の老朽化
  - 農村住民の減少や高齢化による地域コミュニティ活動と多面的機能の低下

## 第3章 食と農業・農村のめざす姿と施策の展開方向

### 【基本目標】

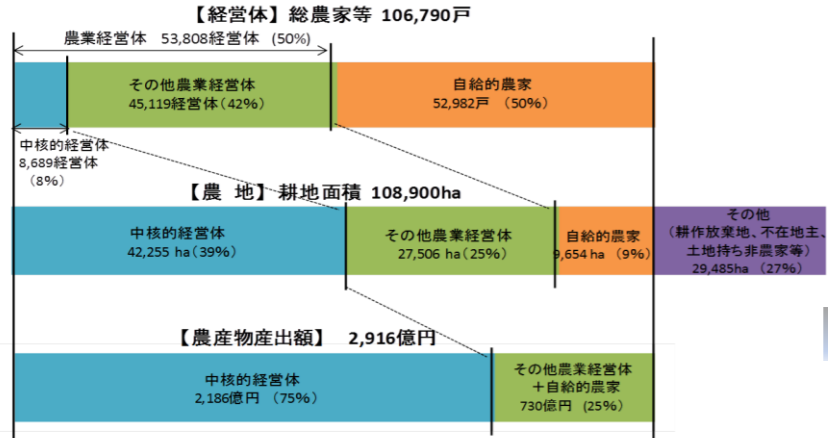
### 次代へつなぐ、笑顔あふれる信州の食と農業・農村

### 【基本指標】(経済努力目標)

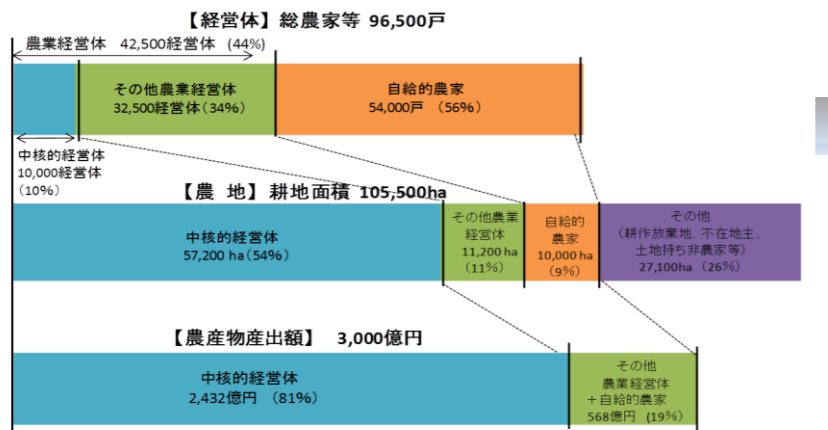
指標名	現状(H27)	目標(H34)	目標/現状
農業農村総生産額	3,118億円	3,300億円	105.8%
農産物産出額	2,916億円	3,000億円	102.9%
農業関連産出額	202億円	300億円	148.5%
農業の単位面積当たり生産性	268万円/ha	284万円/ha	106.0%

### 【生産構造等の目標】

【平成27年】(2015農林業センサスより推計)



【平成34年】



### 【施策体系】

#### 基本方向1 次代へつなぐ信州農業

施策	【主な施策】
1 次代を担う経営体の育成と人材の確保 ア 企業マインドで信州農業を支える中核的経営体の育成 イ 中核的経営体を支える雇用人材の安定確保 ウ 次代の信州農業を担う新規就農者の確保・育成 エ 地域農業を支える多様な農業経営体等の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化</li> <li>・法人化などによる経営の体質強化</li> <li>・意欲の高い雇用就業者(従業員)の確保及びスキルアップ</li> <li>・障がい者や高齢者など多様な人材の雇用支援</li> <li>・教育委員会等と連携した若者の将来の就農に向けた支援</li> <li>・ステップアップ方式による新規参入希望者に対する就農支援</li> <li>・集落営農組織の育成や法人化の支援 等</li> </ul>
2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産 ア マーケットニーズに応える競争力の高い信州農畜産物の生産 イ 環境農業の推進と農畜産物の安全性の確保 ウ 次代を拓く新品種・新技術開発と普及活動の展開 エ 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田農業経営の効率化・複合化などによる体質強化</li> <li>・オリジナル品種等の戦略的生産拡大など園芸農業の強化</li> <li>・先端技術導入による本県産物の生産性とブランド力の向上</li> <li>・実需者ニーズに応える信州ブランド魚の高品質・安定生産</li> <li>・環境農業を基本とした国際水準GAP認証への取組拡大</li> <li>・消費者に高く評価される魅力あるオリジナル品種の開発</li> <li>・収益性を高めるための農地の条件整備 等</li> </ul>
3 需要を創出するマーケティング ア プレミアム・オリジナル・ヘリテージによるブランド力の強化 イ マーケットインによる農畜産物の需要創出 ウ 世界に求められる信州農畜産物の戦略的な輸出促進 エ 稼ぐ6次産業化ビジネスの展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農畜産物のブランド力の強化に向けた「おいしい信州ふーど(風土)」の取組強化</li> <li>・需要を創出する戦略的なマーケティングの展開</li> <li>・県産農産物と花きの輸出拡大と新規需要の創出</li> <li>・食品産業と連携した県産農産物等の需要創出 等</li> </ul>

#### 基本方向2 消費者とつながる信州の食

1 本物を味わう食と食し方の提供 ア 「信州ふーど」の取組による信州産食材の魅力発信 イ 食の地産地消と農産物直売所機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「信州ふーど」による県民運動の展開</li> <li>・実需者での県外産から県内産食材への置き換えなど地産地消の推進 等</li> </ul>
2 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案 ア 未来を担う子どもたちへの信州の食の伝承 イ 地域ぐるみで取り組む食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問などによる子供達への信州の食の伝承</li> <li>・他部局や関係団体と連携した食育の推進 等</li> </ul>

#### 基本方向3 人と人がつながる信州の農村

1 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり ア 持続的な営農を支え、暮らしを守る農村環境の整備 イ 都市住民との協働など皆に理解されて進める多面的機能の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村の暮らしを守る防災減災対策</li> <li>・多面的機能を維持発揮するための地域ぐるみで行う共同活動への支援 等</li> </ul>
2 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAと連携した農村コミュニティ活動への支援</li> <li>・一人多様な暮らし方による地域コミュニティの維持 等</li> </ul>
3 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村の地域資源を観光に活用する取組を支援</li> <li>・小水力発電などエネルギーの地産地消の取組を支援 等</li> </ul>

### 【達成指標】

番号	項目	現状(平成28年度)	目標(平成34年度)
1	中核的経営体数	8,998経営体	10,000経営体
2	法人経営体数及びその常雇用者数	958経営体( )	1,080経営体( )
3	担い手への農地の集積率	39% ※	54%
4	新規就農者数(45歳未満)	224人/年	250人/年
5	集落営農組織数	327組織	350組織
6	効率的な水田農業経営体数とその面積シェア	615経営体35.1%	800経営体45.0%
7	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米・麦・大豆・そば)	2,000ha	3,370ha
8	果樹戦略品種等の栽培面積	1,884ha	2,826ha
9	りんごの高密植・新しい化の栽培面積	257ha	735ha
10	夏秋期のレタス、ハクサイ、キャベツの全指定産地出荷量に占める契約割合	36.1%	40.8%
11	信州プレミアム牛肉の認定頭数	3,477頭/年	3,800頭/年
12	信州ブランド魚の生産量(信州サーモン・信州大王イワナ)	345t	485t
13	国際水準GAPの取得件数	14件	42件
14	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	—	44か所
15	「おいしい信州ふーど(風土)」SHOP登録数	1,298店舗	1,600店舗
16	県が主催する商談会における農業者等の成約件数	208件/年	350件/年
17	県産農産物等の輸出額	5.6億円	20億円
18	売上高1億円以上の農産物直売所数及び売上総額	52施設151億円	60施設200億円
19	県産食材提供施設数	—	500施設
20	学校給食における県産食材の利用割合	45.7%	48.0%
21	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	40,827ha	49,800ha
22	荒廃農地解消面積 ※本計画から非農地判断分を含める	991ha/年	1,000ha/年※
23	都市農村交流人口	624,909人	
24	地域おこし協力隊の隊員数	280人	
25	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	2,184kW	4,000kW
26	新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	—	25か所

※ 2「法人経営体数及びその常雇用者数」のうち、「その常雇用者数」の現状値及び目標値については、平成30年度から新たに調査を開始し、その調査結果(H29実績)を現状値とする。目標値は、現状値等から別途設定する。

# 次期長野県食と農業農村振興計画(答申案)の概要

## 第4章 地域別の発展方向

地域名	基本目標	重点取組	主な達成指標
佐久	夢ある未来にチャレンジ!! 健康長寿の里で広げる佐久農業	○次代へつなぐ意欲ある担い手の確保・育成 ○夏秋期野菜の安定供給と責任産地としての生産流通体制強化 ○強みを活かした競争力の高い水田農業、畜産業の振興 ○農業を支える基盤整備の推進 ○地域食材の魅力を伝える地消地産と食育の推進 ○多様な人材による農村の活性化	○果樹・花きの新規就農者数 4人/年(H28) → 8人/年(H34) ○新たに地元食材を供給する宿泊施設数 0施設(H28) → 10施設(H34) ○定年帰農者数 16名(H28) → 76名(H34)
上田	多様な人材が活躍する、人と食をつなぐ上小農業	○多様な人材が活躍できる、地域と一体となった担い手の確保・育成 ○需給バランスのとれた水田農業と安全安心な農畜産物の生産 ○消費者や実需者に信頼される園芸産地の確立 ○食の地消地産と農産物直売所の機能強化 ○多様な農業生産活動や農村の暮らしを支える基盤づくり ○特色ある地域資源を活かした農村の活性化	○中核的経営体数 442経営体(H28) → 523経営体(H34) ○国際水準GAPの取得件数 1件(H28) → 5件(H34) ○常設農産物直売所の売上額 18億円(H28) → 22億円(H34) ○ワイン用ぶどうの栽培面積 75ha(H28) → 110ha(H34)
諏訪	高い標高、高い品質、高い志が育む諏訪の農業	○新規就農者の確実な定着と多様な担い手の中核的経営体への誘導 ○諏訪ブランド農産物の安定生産による稼ぐ園芸農業の推進 ○諏訪地域の立地条件に適した特徴的な農畜産物の生産振興 ○諏訪湖の創生につながる環境にやさしい農業の更なる推進 ○諏訪の「食」と「農」をつなぐ地消地産の推進 ○みんなが生き生きと暮らす魅力ある農村づくり	○中核的経営体数 519経営体(H28) → 569経営体(H34) ○国際水準GAPの取得件数 1件(H28) → 3件(H34) ○農産物直売所の売上額 17億円(H28) → 20億円(H34) ○新たに観光資源として活用した農業施設数 1か所(H28) → 2カ所(H34)
上伊那	二つのアルプスが輝く、 大地と人を育む上伊那の農業・農村	○集落営農の新たな展開と担い手の確保 ○実需者ニーズに応じた高品質米生産と水田の総合活用による土地用型農業の推進 ○豊富な自給飼料を基盤とした国際競争力をもつ酪農経営の展開 ○河岸段丘など恵まれた環境を活かした園芸作物の生産振興 ○食育教育の充実と多品目の農産物を最大限に活用した地消地産の実現 ○二つのアルプ스에 囲まれた快適な農村環境の創造	○多様な事業展開に取り組む集落営農組織数 12組織(H28) → 17組織(H34) ○果樹戦略品種等の栽培面積 57ha(H28) → 82ha(H34) ○県産食材提供施設数 0施設(H28) → 17施設(H34) ○地域ぐるみでの多面的機能維持活動 6,876ha(H28) → 8,616ha(H34)
南信州	豊かさあふれる南信州農業！ 農から始まる新しい交流文化	○南信州農業の次代を担う人材の確保・育成 ○新技術や新品種拡大による競争力の強い果樹産地づくり ○マーケットインの複合産地の構築 ○シードルの特産品化など稼ぐ農業ビジネスに向けた高付加価値化の推進 ○食育の推進と交流を通じた地消地産の拡大 ○農を基軸とした多様で豊かな地域づくり	○1ター年就農者数 5人/年(H28) → 5人/年(H34) ○柿の栽培面積 517ha(H28) → 542ha(H34) ○販売金額1億円以上の直売所数 7か所(H28) → 8か所(H34) ○重要な農業水利施設の整備か所 6か所/5年間
木曾	木曾らしく、農業の個性を高め、伝統食で人をつなぐ	○木曾農業を支える経営体と人材の確保・育成 ○木曾農業ブランド「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興 ○特色ある「稼げる農業」の推進 ○木曾の本物を味わう食と食し方の提供 ○住民参加による元気な村づくり ○元気な村づくりのための農地の条件整備と農村資源の活用	○御嶽はくさい計画出荷量 38.3万c/s(H28) → 40万c/s(H34) ( " " 出荷額 4億6千万円(H28) → 5億3千万円(H34)) ○1戸当たり子牛出荷頭数 5.47頭(H28) → 6頭(H34) ○GIすんきの製造量 0t(H28) → 50t(H34) ○生産性を高める農地の条件整備 814ha(H28) → 829ha(H34)
松本	豊かな水と大地の力を結集！ 未来につなぐ松本農業	○松本地域の農業を担う新規就農者の確保と経営体の育成 ○農地や水路など農業基盤の整備と農地利用の集積・集約 ○消費者・実需者が求める農産物の総合供給産地の確立 ○松本地域の食材を活かした地消地産や食育活動の推進 ○風土豊かな松本地域の農山村の活性化	○担い手への農地の集積率 47.8%(H28) → 65.0%(H34) ○実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米、麦、大豆、そば) 329ha(H28) → 738ha(H34) ○りんご高密度・新わい化栽培面積 75ha(H28) → 150ha(H34) ○野生鳥獣による農業被害の減少額 273万円(H28) → 500万円(H34)
北アルプス	「人」と「食」がつながる北アルプス山麓の農業・農村	○北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成 ○新技術の活用、高付加価値化、農地整備による競争力の高い水田農業の推進 ○実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり ○北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興 ○多彩な観光資源を活用した食の地消地産と食育の推進 ○暮らしの場としての農村の振興	○信交酒545号(山恵錦)の栽培面積 0.5ha(H28) → 35ha(H34) ○加工・業務用野菜の栽培面積 12.2ha(H28) → 20ha(H34) ○北アルプス山麓ブランド認定数 99品(H28) → 129品(H34) ○県産食材提供施設数 0施設(H28) → 47施設(H34)
長野	未来に夢を！ 次代へつなごう食と農、地域で築こう元気な農村	○産地を支え未来につなぐ新規就農者や定年帰農者など多様な担い手の確保・育成 ○新品種・新技術の導入や樹園地の継承・集積で発展する競争力の高い果樹産地づくり ○地域の特徴を活かした野菜、花き、穀物等の産地づくりと環境農業の推進 ○地域資源を活用した食育や地消地産の推進と新たな需要の創出 ○皆が訪れ暮らしたくなる農村づくり ○活気に満ち安全安心な農村づくり	○果樹の新規就農者数(45歳未満) 32人/年(H28) → 32人/年(H34) ○果樹戦略品種等の栽培面積 1,155ha(H28) → 1,480ha(H34) ○売上高1億円以上の農産物直売所の売上総額 20億円(H28) → 26億円(H34) ○持続的な営農や農村の暮らしを守る取組面積 74ha(H28) → 1,958ha(H34)
北信	北信州 つなぎ育む 人・食・農	○経営向上をめざす優れた担い手の育成 ○米・果樹・きのこ 市場競争力のある強い産地づくり ○野菜・花き・畜産 特色ある多彩な農産物等の生産強化 ○持続的な農業生産活動を支える基盤整備 ○地元「食」の魅力の共有・発信と地消地産の推進 ○農村が有する多様な資源の維持・活用と農村の活性化	○中核的経営体数 1,226経営体(H28) → 1,301経営体(H34) ○良食味米、業務用米等の栽培面積 535ha(H28) → 650ha(H34) ○果樹戦略品種等の栽培面積 253ha(H28) → 460ha(H34) ○県産食材提供施設数 ー施設(H28) → 39施設(H34)

## 第5章 重点的に取り組む事項

計画の実現に向けて、農業分野だけでは解決できない広域的かつ横断的な課題に対して、製造業や観光業など他分野の民間企業との連携により、地域と一体となって重点的に取り組む

### 1 スマート経営プロジェクト ～経営のイノベーション～

【取組方策】・トップランナーや最先端農業等の紹介による本県農業の魅力発信  
・教育機関と連携した将来の担い手の育成  
・経営力、経営基盤、GAP取組の強化と雇用人材の安定確保

【数値目標】

番号	項目	現状(H28)	目標(H34)
1	中核的経営体数(トップランナー)	8,998経営体(1,315経営体)	10,000経営体(1,500経営体)
13	国際水準GAPの取得件数	14件	42件

### 2 スマート生産プロジェクト ～生産のイノベーション～

【取組方策】・ICT技術やハイテク機械などの革新的な技術・機械の開発と実用化  
・地下かんがいシステム(FOEAS)の導入による生産性の向上  
・トヨタ式カイゼン手法の普及・定着による経営改善

【数値目標】

番号	項目	現状(H28)	目標(H34)
ー	革新的な農業技術・機械の開発と実用化数	0件	9件

### 3 スマート流通プロジェクト ～マーケティングのイノベーション～

#### その1 園芸県長野の振興

【取組方策】・オリジナル新品種のマーケティング強化  
→ 「ブドウ長果11」の商標戦略などのブランディング  
→ 夏りんご「りんご長果25」から始まる長期リレー出荷の構築  
→ 高級すもも「すもも長果1」の商標戦略などのブランディング  
・新たな消費ニーズの創出で葉洋菜産地を強化  
・養液栽培、光を使った害虫防除等最先端技術で野菜生産を強化  
・地域の潜在的な労働力を活用した野菜の生産拡大

【数値目標】

番号	項目	現状(H28)	目標(H34)
8	果樹戦略品種等の栽培面積	1,884ha	2,826ha

#### その2 信州産農産物等の輸出拡大

【取組方策】・重点国と新規開拓国のターゲット設定による輸出取組の強化  
・海外有望バイヤーの県内産地見学などによる取引拡大  
・輸出対象国ごとの輸出条件への的確な対応  
・県内食品産業者との連携により加工品との一体的なPR戦略

【数値目標】

番号	項目	現状(H28)	目標(H34)
17	県産農産物等の輸出額	5.6億円	20億円

#### その3 食品産業者の県産農畜産物利用拡大

【取組方策】・食品事業者等における県産農畜産物に対するニーズの把握  
・食品産業者の多様なニーズに対応した生産体制の構築  
・機能性を活かした新たな需要創出と契約栽培の促進  
・農業分野と食品産業者とのマッチングによる商品開発

【数値目標】

番号	項目	現状(H28)	目標(H34)
16	県が主催する商談会における農業者等の成約件数	208件/年	350件/年

### 4 農村活性化プロジェクト

【取組方策】・JAと連携した農村コミュニティ活動への支援  
・疎水やため池、棚田などの農村景観や資源を観光に活用  
・農村の魅力を感じ、保全活動への多様な人材の参画を促すため、棚田やため池等の保全をテーマにした全国イベントの開催等を支援

【数値目標】

番号	項目	現状(H28)	目標(H34)
23	都市農村交流人口	624,909人	
26	新たに観光資源として環境整備された疎水等の箇所数	ー	25か所